



# バッハの森通信

第 131 号  
2016 年  
4 月 20 日発行

一般財団法人バッハの森

〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9 <http://www.bach.or.jp>

☎ 029-847-8696 / Fax 029-847-8699 e-mail : [info@bach.or.jp](mailto:info@bach.or.jp)

郵便振替 00380-4-16119 一般財団法人バッハの森

## 言葉に命を与える音楽

### 教会音楽の魔力を楽しもう

朝日新聞（3月9日）茨城版の「ぴーぷる」欄に、〈私塾「バッハの森」を営む聖書学者・石田友雄さん〉という記事が掲載されました。この取材のために、記者の田中ぬれ奈さんは、「読書会：聖書」「合唱」「コラールとカンタータ」などのプログラムに数回参加した後でインタビューを申し込んでこられました。インタビューは、次々に出てくる質問に答えているうちに、気がついたら5時間近くたっていました。創立以来31年間に、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどから多数の取材を受けてきましたが、これほど熱心な取材は初めてです。

その後、送ってくださった掲載紙に添えて、「お話しが興味深すぎて」まとめるのに苦心したとありましたが、一般の方々に分かるような平易な言葉でわずか600字にまとめた文章により、美事にバッハの森を紹介してくださいました。なお、この記事を読んでバッハの森を知り、早速入会した方がいます。

\* \* \*

バッハの森を紹介することの難しさを、バッハの森の会員の皆さんはよく知っています。その原因はバッハの森で理解されている言葉の意味が、一般社会の理解と少々違うことにあります。特に「教会」「音楽」「聖書」など、バッハの森の活動と深く関わる言葉が問題です。

バッハは、300年前にドイツで活動していた「教会音楽家」ですが、当然、そのような歴史的事実とは無関係に「教会」と「音楽」の二語は一般社会で用いられています。それによると、「教会」はキリスト教の信者が集まる宗教団体、「音楽」は音符どおり歌ったり、演奏したりすることです。決して間違っていないですが、この理解だけでは、バッハも、バッハの森の活動も正しく紹介できません。

バッハの森のテーマは、バッハが集大成したルネサンス・バロック時代の教会音楽です。この500年～300年前の西欧の教会音楽は、教会の礼拝（ミサ）

のために作曲されました。そこで、バッハの森では、これらの音楽の枠組みである教会の暦に従ってスケジュールを構成し、教会の礼拝（ミサ）順序を借用してコンサートのプログラムを作成します。そのため、教会と誤解されることがありますが、これは教会音楽を理解するための準備であって、決して宗教的儀式をしているわけではありません。

\* \* \*

間違いなく、音楽には言葉では表現できない感動を与える「魔力」があります。そのため、特に西洋音楽の世界では、この「魔力」だけが高く評価され、音に付いている歌詞が何を言っているのか気にする人は少ないようです。確かに、教会音楽の歌詞を理解するためには、ラテン語やドイツ語の歌詞を日本語に翻訳しただけで済む問題ではありません。聖書に由来する歌詞ですから、分からなくて当然です。聖書は日本人にとって異文化の宗教書ですから。

しかし、どうせ分からないと、あきらめる前にルターの言うことを聞いてください。「音楽は歌詞を生かす」(Die Noten machen den Text lebendig)。「生かす」は、「生き生きとさせる」「命を与える」とも訳せます。なおこの場合「歌詞」は「聖書の言葉」を意味しています。さすが、音楽愛好家のルターです。「歌詞」が分からない者に「歌詞」を分からせる「魔力」が音楽にあることを知っていました。最初、歌詞、すなわち、聖書の言葉の意味が分からなくても、やがて音楽が分からせてくれると考えていたのです。

ここで、もう一つのキーワード、「聖書」について付記しておきます。聖書は、かつてはキリスト教会だけの聖典でしたが、今は同時に人の命の尊さを伝える人類共通の文化遺産になっている、とバッハの森では考えられています。

ですから、教会音楽の響きを持つ魔力に惹かれて入門しても、この魔力のルーツが聖書の言葉であることが分かってくると、教会音楽の本当の面白さのとりこになります。今、バッハの森と一緒に歌い、オルガンやハンドベルと一緒に学んでいる人たちは、多かれ少なかれ、このような経過を経て、教会音楽のとりこになった人たちです。私たちは、この特別な幸福感を広く分かち合いたいと願っています。

皆さん、言葉に命を与え、言葉を生き生きとさせる音楽を、ご一緒に楽しみませんか。(石田友雄)

## 平和の願い

### 諸問題の解決を負う「神の小羊」

\*本稿は去る3月20日にバッハの森・創立記念コンサートで朗読したメディタツィオです。

教会の暦は、復活祭の7週前の水曜日から数えて、日曜日を除く40日を受難節と定め、イエス・キリストの受難を思う厳粛な期節として守ってきました。この、受難節が始まる週の日曜日を、この日の詩篇31篇3節により、ラテン語で「エストミヒ」と呼びます。「エストミヒ、(私のためになってください)、砦の岩に」という祈りの初めの言葉です。これは、神が堅固な城砦になって敵の攻撃から護ってくださるように、という平和の祈願に他なりません。

#### 見えるようになる願い

これから、バッハがエストミヒ、すなわち、受難節直前の日曜日のために作曲したカンタータを演奏します。バッハはその日の礼拝のために、古くから定められている福音書の音楽的解説としてカンタータを作曲しました。ですから、まず、エストミヒの福音書のメッセージをご一緒に考えてみましょう。

それは、ルカによる福音書18章31～43節です。そこには、一見、無関係に見える二つのエピソードが並んでいます。まず、イエスが12人の弟子たちを呼び寄せて、「これからエルサレムへ行く」と告げ、エルサレムで起こる彼の受難と復活について語りました。しかし、弟子たちには何も分かりませんでした。弟子たちの無理解と孤独なイエス、これが、この後に続く受難・復活物語のテーマの一つです。

さて、もう一つのエピソードは、エルサレムへ向かうイエスと弟子たちが、エリコ近郊にさしかかったときに起こった出来事を語ります。道端で盲人が物乞いをしていました。ざわざわする物音を聞きつけた盲人が周りの人々に、何かと尋ねると「ナザレのイエス様のお通りだ」と知らされました。イエスが、難病を癒やす奇跡を行う人であることを聞いていた盲人は、人々の制止を振り切って、「ダビデの子イエスよ、私を憐れんでください」と大声で叫び始めました。「ダビデの子」とは、ダビデ王家の子孫からメシアが生まれるという預言に基づく「メシア」の称号です。叫び続ける彼の声が耳に入ると、その盲人を連れてくるよう命じたイエスは、「何がしてほしいのか」と尋ねました。「目が見えるようになりますように」と彼が答えると、「見えるようになれ。お前の信仰がお前を救った」とイエスは言われました。するとたちまち目が見えるようになった盲人は、神を誉め称えながらイエスに従い、これを見ていた群衆は神を讃美した、と伝えられています。

このエピソードが別の箇所でも語られていたら、エストミヒとは無関係な奇跡物語の一つでしょう。しかし、受難・復活の定めに従って、エルサレムに向かう途中のイエスが関わった出来事として語られるとき、この盲人が、イエスの受難と復活に無理解な12弟子と対照的な存在であることが見えてきます。この時、12弟子は自分たちが見えていないことに気付かなかったのです。ですから、見えるようになりたい、とイエスに訴えることもしませんでした。他方、長らく盲目に苦しんできた盲人は、イエスが目を開いてくれるメシアだと信じ、必死になってイエスを呼び止めたのです。これから演奏するカンタータは、最初の3曲で、この状況を盲人に語らせます。

#### イエスの受難と復活

ここで、その後、エルサレムでイエスと弟子たちに起こった出来事を振り返っておきます。最後の晩餐の後で、弟子たちは、イエスについてゲッセマネの園へ行きましたが、切迫した状況が分からないまま、必死に祈りを捧げるイエスのうしろで眠っていました。そこに、ユダに手引きされた大祭司の部下たちが来てイエスを逮捕すると、弟子たちは全員逃げ出してしまいました。ひとり、密かに後をつけて様子をうかがっていたペテロも、お前もイエスの仲間だろう、と言われると、あわてて打ち消し、後で後悔して号泣する始末でした。いずれにしても、イエスが大祭司邸で一晩中尋問され、早朝ローマ人総督ピラトの許に送られて裁判にかけられ、そこで死刑の判決を受け、ゴルゴタの刑場まで十字架を背負って歩かされたときも、それから十字架につけられ、十字架上で絶命したときも、ことの成り行きを遠巻きにして見守っていたのは、女弟子たちだけでした。ヨハネによる福音書が少々違うことを伝えますが、この伝承の歴史性は疑問です。

その後、イエスの遺体をピラトから貰い受けたのは、アリマタヤのヨセフという勇気のある議員でしたし、イエスの遺体を墓に埋葬したときも、そこに来たのはニコデモと女弟子たちでした。男の弟子たちは迫害を恐れ、息を潜めて隠れ家に隠れていたのです。彼らにはまだ何も見えていなかったのです。

金曜日の夕方にイエスを埋葬した墓に、3日後、すなわち、日曜日の早朝、3人の女弟子たちが遺体に油を塗るために行きました。すると墓は空で、天使が女たちにイエスの復活を伝えたと伝えられています。このとき実際にどのようなことが起こったのか、唯一の史料である新約聖書から再構成することは困難です。しかし、それよりも重要なことは、イエスが復活した、と女弟子たちから聞かされた男の弟子たちの目が開いたことです。彼らは隠れ家から出て来て、ナザレのイエスはメシアだった、と公然と語りだしました。その際に彼らは、聖書に基づいて、自分たちの主張を証明しようとしたのですが、中でも十字架上で血を流したイエスの死は、過越しの小羊の犠牲のようなものだ、という説明が最も強く

聴衆にアピールしました。

過越祭は、エジプトで奴隷にされていた先祖が、モーセに率いられてエジプトを脱出したとき、イスラエルの神の命令に従い、小羊を屠ってその血を家の入り口に塗り、死神の侵入を防いで助かったという故事に基づき、民族の救いを祝うユダヤ人の最も重要な祭りです。イエスの受難と復活が、丁度、過越祭の最中に起こった事件だったことも、弟子たちの説明の助けになったと思います。

### ミサの式文、「神の小羊」

その後、急速に広まったキリスト教会で、イエスは、「過越の小羊」と比較されるだけではなく、より一般的に、「神の小羊」と呼ばれるようになりました。そのことを、1世紀末に成立した、ヨハネによる福音書は、「世の罪を取り除く神の小羊」という言葉で伝えます。「神の小羊」とは、旧約聖書の律法により、神に犠牲として捧げられ、神のものになった小羊のことですが、それにつけられた「世の罪を取り除く」という説明には、イエスを「神の小羊」と呼んだキリスト教徒の思いが籠められています。

キリスト教がローマに伝えられると、この言葉は、礼拝（ラテン語ミサ）の最後の通常式文に組込まれ、“Agnus Dei, qui tollis peccata mundi, miserere nobis”、同文繰り返しの後、“Agnus Dei, qui tollis peccata mundi dona nobis pacem”となりました。「神の小羊、あなたは世の諸々の罪を取り除く方、私たちに憐れんでください」、同文繰り返しの後、「神の小羊、あなたは世の諸々の罪を取り除く方、私たちに平和を与えてください」という意味です。宗教用語である「罪」という言葉を、敢えて世俗的な現代語に翻訳するなら、「解決困難な諸問題」となるでしょうか。実際、どうしても解決できない諸問題を私たちはかかえています。個人的、社会的な諸問題から、温暖化、経済格差、人種差別、テロ、戦争など、解決できない難問に世界中の人々が悩まされています。

これら、人間には解決できない諸問題を取り除くことができる「神の小羊」とは、何を意味しているのでしょうか。イエスを一旦見捨てた弟子たちが、彼を「神の小羊」と呼ぶようになったのは、「復活したイエスに出会ったからだ」と、新約聖書は説明します。この神秘的・宗教的な説明を一般に理解される表現に変えれば、ナザレのイエスの生き方と死に様から受けた強烈なインスピレーションの下に、十字架に終わった彼の生き方を全面的に肯定した、ということになるでしょうか。そしてイエスを「神の小羊」と呼んだことは、神に属す小羊の論理、す

なわち、「天」の論理による生き方だけが、温暖化、格差、差別、テロ、戦争など、地上の論理ではどうしても解決できない諸問題を解決して、「地」に平和をもたらす道だと信じたことを意味します。これはまさに、「天の王国」を地上に実現することを目指した、ナザレのイエスの運動方針に他なりません。

### 平和を神に強請

ラテン語ミサの式文“Agnus Dei”「神の小羊」を、ルターの教会は“Christe, du Lamm Gottes”と、ドイツ語に翻訳して歌いました。ラテン語の式文にない「キリストよ」という呼びかけは、「キリスト」がヘブライ語の「メシア」のギリシャ語訳であることを知ると、「ダビデの子よ、私を憐れんでください」という、あの盲人の叫びと同じであることが分かります。すでに説明したとおり、「ダビデの子」は「メシア」を意味しているからです。

なお、ラテン語式文の「あなたは世の諸々の罪を取り除く方」という箇所が、そのドイツ語訳では、「あなたは世の諸々の罪を負う方」と少々変更されています。諸々の罪を「取り除く」ために「負う」と理解すれば、ドイツ語訳は、小羊が果たした犠牲の役割を強調していると思われます。

ここでようやくカンタータの解説ができます。先ず、最初の3曲の語り手が、イエスに救いを求める盲人であることを確認してください。「真(マコ)の神にしてダビデの子よ」という呼びかけで始まる第1曲は、この盲人にとってイエスがメシアであり神であることを明らかにします。と言うことは、自分が盲目を苦しんでいることを大昔から知っている方、だから、憐れんでください、と願います。これは、ミサ冒頭の式文である「キリエ、エレイソン」（主よ、憐れみたまえ）に他なりません。第2曲では、通り過ぎようとするイエスを必死になって引き留め、盲目を癒やして下さらなければあなたを離さない、と訴えます。この間にオルガンが“Christe, du Lamm Gottes”、すなわち、ドイツ語の「神の小羊」の旋律を演奏して、訴えている相手が「神の小羊」であることを示します。第3曲も語り手は同じ盲人ですが、最初に「すべての者の眼は、主よ、全能の神よ、あなたを待ち望んでいます」と詩篇145篇を引用して歌い始めます。このフレーズがロンド形式の音楽的テーマとして、第3曲を通じて7回繰り返されますが、そこには“Christe, du Lamm Gottes”の旋律が隠されています。こうして、「全能の神」がキリスト、すなわち、メシアであり、「神の小羊」に他ならないことを暗示しながら、暗闇の中にいる者の眼に光が与え

られることを願います。

ここまで、第2曲と第3曲で暗示されてきた「神の小羊」が、終曲ではっきりと姿を現します。すなわち、顕現します。彼はもはや盲人が個人的な願いを訴える相手ではなく、礼拝に参加する全会衆の祈りの対象として、“Christe, du Lamm Gottes” 全3節が、各節それぞれ独立して音楽化された合唱曲として歌われるのです。1節と2節で憐れんでくださること、すなわち、顧みてくださることを願い、最後に、盲人にとっては「光」、一般的には「平和」が与えられることを祈ります。

ラテン語で“Dona nobis pacem”、ドイツ語で“Gib uns dein' Frieden”、すなわち、「私たちにあなたの平和を与えてください」という願いには三つの前提が籠められています。第1に、自分が盲目だという自覚、第2に、ドイツ語式文がより明らかに表現し

ているように、祈り求める「平和」は「あなたの平和」、すなわち、「神の小羊の平和」、言い換えれば、「天の王国の平和」であること、第3に、あの盲人のように、「祝福してくださるまで、あなたを離しません」という強請、すなわち、神を“ゆずって”も獲得しようとする平和願望です。この姿勢をイエスは「信仰」と呼び、「お前の信仰がお前を救った」と言いました。

\* \* \*

世界が深刻な諸問題に満ち溢れていることを、皆、知っています。しかし、解決策が見つからないまま、人類は自滅の道をたどっているように見えます。これら、どうしても解決できない諸問題を解決するための何らかの示唆を、エストミヒの福音書とそれに基づくカンタータに発見することはできないでしょうか。(石田友雄)

## LETTER / レター / 便り

# 気高い精神性に驚く 創立記念コンサート

バッハの森・石田友雄先生

バッハの森創立 31 周年、本当におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

今回、初めて参加いたしました。3月20日の創立記念コンサートには、深く感銘を覚えました。素晴らしいコンサートでした。つくばのこんな身近な地に本物のバッハがあるとは、驚きでした。大バッハのカンタータやミサ曲などの宗教曲を、音楽的に卓越した作品であると理解しながら、私には、そこへ一歩近づくことに躊躇いがありました。いつかはその内容を、ドイツ語やラテン語を学び、把握できる日が来ることを期待しつつ、怠惰な私はこれまでそこへ近づくことがなかったのです。

バッハの森のオルガンが、北ドイツの調べを奏でるものであることを知り、この上ない僥倖に包まれています。大バッハを準備した彼の先輩、ディートリヒ・ブクステフーデに代表される北ドイツ楽派の、あの北国の重く、黒々と垂れ込めた雲間から、一条の陽の光が差し込み、地上の人々に微かな希望を与えるようなオルガン曲が大好きなのですが、ま

さにそれを演奏するのにふさわしいオルガンだと思いました。高音は、天上の彼方から、優しく諭すように聞こえ、低音は、奏楽堂全体に広がり、聴く者すべてを重層的な低音の世界へと導くのです。あのオルガンは、聖書を深く研究されている石田先生が、今は亡きオルガニストの奥様へ贈られた最高のプレゼントであったばかりか、聴く者すべてへの至高の贈り物なのです。

奏楽堂には、甘く優しい香り、おそらく中東原産の乳香がほんのり立ち込め、ベゼルベベの魔術に誘われるような雰囲気でした。しかし、それを打ち払うかのようにハンドベルが鳴り響き、コンサートは始まりました。ルターの宗教改革、三十年戦争、すっかり荒廃したヨーロッパに秩序をもたらしたウェストファリア条約、そしてバッハの登場などと思いを巡らしていると、あっという間に終わってしまいました。演奏者の方々の卓越した技量は申すまでもなく、その気高い精神性にただただ驚愕するばかりです。本当に至極のときをお与えください、感謝の念に堪えません。ありがとうございました。

コンサート終了後、ご挨拶も申し上げず帰宅してしまい、大変失礼いたしました。再びお目にかかれる機会を楽しみにしております。桜の咲く季節とは申せ、花冷えもあります。何卒ご自愛ください。

平成 28 年 3 月 22 日 谷中安夫 (筑西市)

## 平和に近づくために

### ベルと一緒に学んだ異文化理解

25年前、長野県から文部省派遣研修生として、筑波大学に内地留学したとき、バッハの森で、ハンドベルの初級コースも学ぶことができました。当時、私は盲学校の教諭をしており、専門は体育でしたが、小学校の音楽も担当しており、テレビで見たハンドベルの美しい響きに心を奪われ、これを子どもたちに教えられないか考えていたところだったので、バッハの森でベルに出会えたのは本当に幸運でした。一子先生は、分かり易い楽しい指導で、初心者もベルの楽しみを十分に味わえるよう、熱心に指導してくださいました。何よりも一子先生のお人柄からしみ出るお茶目で可愛らしい会話（失礼！）が、とても楽しかったことをよく覚えています。

ベルの練習の後で、石田先生ご夫妻を囲むにぎやかなお茶の会も、大きな楽しみでした。私たち受講生同士の会話も盛り上がりましたが、そこに絡めて友雄先生や一子先生のレクチャーが始まると、それに質疑応答が続き、まるで大学のゼミのような有意義な一時でした。友雄先生のお話しは、どれも貴重なお話しでしたが、ある時、これから日本でも増えると思われる外国から来る方々、特に外国人労働者の方々と軋轢を起こさないように、その人たちの文化を理解することが大切だと熱弁されたことがありました。この前、南米から来た青年が悲惨な事件を起こしたとき、このお話しを思い出して憂いておりました。最近では世界中で、民族、宗教、文化の違いから激しい争いが拡大しています。互いの文化を理解し尊重しあう寛容な姿勢がいかに大切か感じております。

\* \* \*

先日は、「平和の願い」をテーマに創立記念コンサートが開かれ、私も参加させていただきましたが、そこでも改めて異文化理解の大切さを学びました。演奏されるバッハのカンタータの解説として、友雄先生は、ルカによる福音書18章の物語に基づいてお話しになりました。それによると、エルサレムに向かって上るにあたり、イエスはそこで起こる受難と復活について12人の弟子たちに予告しましたが、弟子たちには何のことかさっぱり分かりませんでした。このように、イエスの話しを聞いても聞こえない、理解できない、先が「見えない」弟子たちに対して、その時、道ばたで物乞いしていた盲人は、自分が見えないことがよく分かっていたので、どうしても見えるようにして欲しいとイエスに迫り、その結果、見えなかった眼を開いていただくという奇跡が起こ

ったというお話しです。

教育現場にいて、子どもたちを観ているのに観えていないこと、彼らの話しが聞こえるのに理解できていない自分に気付くことがあります。本当に必要感に迫られた者のみが真実を求め、問題の解決をしていけるのだ、と改めて教えられました。

聖書は異国の宗教書で、自分の生活とは別世界のものと思いついていましたが、日常生活の生き方を示す書物だったのか、と気付かされ、目から鱗の体験でした。同時にこれは異文化理解の一步であり、こういう一步が、ささやかであっても平和に近づく一步なのだと思います。

コンサートでは、二人のオルガニストが素晴らしい演奏でアーレント・オルガンを弾いてくださいました。25年前に、ハンドベル教室に通っていた頃、それこそ建造されて間もないアーレント・オルガンを、一子先生が弾いてくださった美しい音色に感動したことを思い出しました。合唱とハンドベル・クワイアの皆さんも熱演でした。これらの音楽が、聖書のお話しを聞いて受けた私の感動を倍増してくださいましたことは間違いありません。

このような素晴らしい活動を、31年間も続けてこられたバッハの森の皆さんに、感謝いたします。これからも、出来る限り参加させていただきたいと願っております。皆様がお元気にバッハの森の活動をお続けになることを心より願って。（正村寿満子）

1. 7, 14, 21, 28 **運営委員会** 参加者各 4 名。  
 1. 8~3. 20 **春のシーズン**  
 1. 27 **打ち合わせ** 杉田せつ子・無伴奏バロック・ヴァイオリン・リサイタル準備。杉田せつ子氏 (ヴァイオリニスト)、岩瀬雅代氏、戸川明子氏。  
 1. 30 **打ち合わせ (夏休みの音楽会)** 出席者 10 名。  
 2. 4, 18, 25 **運営委員会** 参加者各 4 名。  
 2. 16 **取材** 田中忍れ奈氏 (朝日新聞水戸総局)。  
 3. 3, 10, 17, 24 **運営委員会** 参加者各 4 名。  
 3. 9 **掲載** 朝日新聞、茨城版 28 頁、「ぴーぷる」に「私塾バッハの森を営む聖書学者 石田友雄さん」。  
 3. 18 **来訪** 浪川幸彦氏 (数学者)。  
 3. 19 **ゲネプロ** 参加者 18 名。  
**オルガン調律** 河内克彦氏。  
 3. 20 **創立記念コンサート**「平和の願い」参加者 38 名。  
 3. 23 **来訪** 唐橋文氏 (中央大学教授)。  
 3. 24 **来訪** 吉田大輔氏 (ヒットライト学者)。  
 3. 30 **来訪** 嶋和彦氏 (浜松市楽器博物館館長)、梅岡俊彦氏 (梅岡楽器サービス・代表)。  
 3. 31 **庭清掃** 参加者 3 人。  
**来訪** 石丸由佳氏 (オルガニスト)。

## J. S. バッハの音楽鑑賞シリーズ

### コラール・カンタータ研究

#### コラールとカンタータ (JSB)

1. 9 新年後の主日のカンタータ「ご覧ください、愛する神よ、私の敵がどのようにするか」(BWV 153) ; コラール「見たまえ、御神よ」。オルガン : J. S. バッハ「ですから私は、なお生きている間は」(BWV 153/9)、當眞容子。参加者 10 名。  
 1. 16 第 397 回、オルガン : J. S. バッハ「ご覧ください、愛する神よ、私の敵がどのようにするか」(BWV 153/1)、當眞容子。参加者 14 名。  
 1. 23 顕現祭後第 1 主日のカンタータ「私の最愛のイエスは失われた」(BWV 154) ; コラール「わがイエスキミを離しまつらじと」。オルガン : J. S. バッハ「私のイエスを私は離さない」(BWV 154/8)、安西文子。参加者 12 名。  
 1. 30 第 398 回、オルガン : J. L. クレプス「私のイエスを私は離さない」、安西文子。参加者 16 名。  
 2. 6 顕現祭後第 2 主日のカンタータ「私の溜息、私の涙は」(BWV 13) ; コラール「すべての業に」。オルガン : J. S. バッハ「それゆえ、魂よ、思い直し」(BWV 13/6)、金谷尚美。参加者 11 名。  
 2. 13 第 399 回、オルガン : J. G. ヴァルター「私のすべての行為において」、金谷尚美。参加者 10 名。  
 2. 20 七旬節のカンタータ「私は神の御心と思いに私の心と思いを委ねた」(BWV 92) ; コラール「御神

の思いに」。オルガン : J. S. バッハ「たとえ私が死の道と暗い通りを旅しなければならなくとも」(BWV 92/9)、笠間きよ子。参加者 13 名。

2. 27 第 400 回、オルガン : J. バッヘルベル「私の神がのぞまれること、それが常に起こるように」、笠間きよ子。参加者 18 名。  
 3. 5 エストミヒのカンタータ「見よ、お前たち、私たちはエルサレムへ向かって上る」(BWV159) ; コラール「血潮と傷と痛みで満ち」。オルガン : J. S. バッハ「イエスよ、あなたの受難は」(BWV 159/5)、海東俊恵。参加者 14 名。  
 3. 12 第 401 回、オルガン : J. S. バッハ「心より我、慕いまつる」(BWV 727)、海東俊恵。参加者 14 名。

## 学習コース

**バッハの森・クワイア (混声合唱)** 1. 9/16 名、1. 16/14 名、1. 23/18 名、1. 30/20 名、2. 6/17 名、2. 13/12 名、2. 20/15 名、2. 27/17 名、3. 5/19 名、3. 12/17 名、3. 19/18 名 (ゲネプロ)。

**バッハの森・バロック・アンサンブル** 1. 30/4 名、2. 13/4 名、2. 20/5 名、3. 5/3 名、3. 12/3 名。

**バッハの森・ハンドベル・クワイア** 1. 16/5 名、1. 30/5 名、2. 20/5 名、3. 5/4 名、3. 12/4 名。

**オルガン音楽研究会** 1. 22/8 名、1. 29/7 名、2. 12/9 名、2. 26/7 名、3. 4/9 名。

**コラール研究会** 1. 8/6 名、1. 22/7 名、2. 5/6 名、2. 19/5 名、3. 4/8 名。

**クラヴィコード・オルガン教室** 1. 22/2 名、1. 29/3 名、2. 26/2 名。

**オルガン・クラブ** 1. 8/3 名、1. 15/3 名、2. 5/3 名、2. 19/2 名、3. 4/4 名。

**読書会 : 聖書** 1. 9/7 名、1. 16/8 名、1. 23/6 名、2. 6/6 名、2. 13/5 名、2. 20/5 名、2. 27/9 名、3. 5/7 名、3. 12/8 名。

**オルガン、クラヴィコード、チェンバロ練習** 1. 5/1 名、1. 6/1 名、1. 7/2 名、1. 8/2 名、1. 9/1 名、1. 12/1 名、1. 13/2 名、1. 14/14 名、1. 15/3 名、1. 16/2 名、1. 19/2 名、1. 21/1 名、1. 23/1 名、1. 26/3 名、1. 27/1 名、1. 28/2 名、1. 30/2 名、2. 2/2 名、2. 3/1 名、2. 4/1 名、2. 5/2 名、2. 6/1 名、2. 9/3 名、2. 10/3 名、2. 12/1 名、2. 13/1 名、2. 16/2 名、2. 17/3 名、2. 18/2 名、2. 19/1 名、2. 20/1 名、2. 23/3 名、2. 24/2 名、2. 25/1 名、2. 26/1 名、2. 27/2 名、3. 1/2 名、3. 2/3 名、3. 3/1 名、3. 4/2 名、3. 5/1 名、3. 8/2 名、3. 9/2 名、3. 11/2 名、3. 12/1 名、3. 14/1 名、3. 15/3 名、3. 16/2 名、3. 17/2 名、3. 18/2 名、3. 19/2 名、3. 22/1 名、3. 23/2 名、3. 25/3 名、3. 29/2 名、3. 30/2 名、3. 31/1 名。